

▼クロフェクトン錠 [内]

- 【重要度】 【一般製剤名】クロカブラミン塩酸塩水和物 clocapramine hydrochloride hydrate 【分類】抗精神病薬
- 【単位】▼10mg・▼25mg・▼50mg/錠
- 【常用量】30～150mg/日
- 【用法】1日3回
- 【透析患者への投与方法】尿中排泄率が低く、おそらく減量の必要はない(5)
- 【保存期CKD患者への投与方法】尿中排泄率が低く、おそらく減量の必要はない(5)
- 【特徴】中枢性抗ドパミン薬の抗精神病薬。統合失調症の抑うつ気分、無為、自閉、感情鈍麻等に対して気分高揚、発動性(足進的に働き、疎通性の改善、接触性の拡大をもたらすとともに、幻覚や妄想等の異常体験に対しても効果を示す。
- 【主な副作用・毒性】悪性症候群、血球減少、麻痺性イレウス、遅発性ジスキネジア、SIADH、静脈血栓、頻脈、血圧低下、パーキンソン症候群、肝障害、角膜・水晶体の混濁、角膜等の色素沈着、不眠、幻覚、消化器症状、乳汁分泌、体重増加、発疹、倦怠感など。自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させない。中毒症状として、傾眠から昏睡までの中枢神経系の抑制、血圧低下と錐体外路症状。
- 【F】15.6% [イヌ, po] (1) 15% (Ishigooka J, et al: Psychopharmacology (Berl) 97: 303-8, 1989)
- 【tmax】2.7hr (1) モサプラミンとして6hr (1)
- 【代謝】血中、尿中に代謝物のモサプラミンが認められる(1) モサプラミンにはD2受容体遮断作用と5-HT2受容体遮断作用がある(1)
- 【排泄】尿中未変化体排泄率0% (1) 代謝物として尿中に0.3%回収され、主に胆汁排泄される(1) 【CL】資料なし(1)
- 【t1/2】46hr (1) モサプラミンとして15hr (1)
- 【蛋白結合率】資料なし(1)
- 【Vd】資料なし(1)
- 【MW】572.01
- 【透析性】資料なし(1)
- 【O/W係数】1777 [クロロホルム/水系, pH 7.0] (1) 【TDMのポイント】効果の評価には未変化体と活性代謝物の両者を測定する必要がある(島田栄子, 他: 北里医学 21: 44-54, 1991)
- 【相互作用】アドレナリンの血圧反転(1)
- 【備考】イミプラミン様作用はない(Kurihara M, et al: Int Pharmacopsychiatry 17: 73-90, 1982) ハロペリドールと同等の効果があり安全性に優れる(Yamagami S.: J Int Med Res 13: 301-10, 1985)
- 【更新日】20170123

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。